

看取り研修会

「 がん患者を診た事例 」
～ サンライズの苦悩から発展 ～

株式会社ハイサポート

サンライズ函館 施設長 鈴木 文香

○ サンライズ函館における主なサービス内容

- ・ サービス付き高齢者向け住宅 サンライズ函館
- ・ 定期巡回随時対応型訪問介護看護
- ・ 通所介護
- ・ 訪問介護
- ・ 訪問看護
- ・ 食堂に厨房があり三食提供
- ・ 自費での入院対応
- ・ 他介護保険外の外出等の自費対応

○ サンライズ函館における入居状況

- ・ 居室数 60床
- ・ 入居者数 71名
- ・ 要介護度 3
- ・ 年齢 47歳～100歳

○ サンライズ函館と関連医療機関

- ・ 入居者それぞれのかかりつけの病院がある
- ・ 往診 現在は内科4か所
「整形外科」 「眼科」 「歯科」
- ・ 日々の中での連携について
主治医からの指示のもと訪問
看護が対応し夜間は待機での対応

○ 初めての看取り...

- ・Tさん 85歳 女性
- ・要介護1
- ・末期がん 脳への転移あり
- ・家族背景 娘さんが二人いたが疎遠
- ・入所時の本人の意向 がんと診断されたが高齢なこともあり積極的な治療は望まない。
本人家族ともに施設での看取りを希望

○ サンライズ函館としての不安苦悩

- ・ 介護職員は看取り介護が未経験の職員がほとんどだったのでまずは職員の心の準備として不安なことを整理。
- ・ 癌に対しての知識が少ないのでどのような経過をたどっていくのかがわからないし、痛がったり苦しがつたときにどう対応していいかわからないので不安。
- ・ 観察するポイントが分からない
- ・ 自分が携わっている間に何かあったらどうしよう・・・。
- ・ 責任が重く感じる、最期の時を迎える大事な時間に関わることの重さを感じる。

○ サンライズ函館としての奮起

- ・ 家族の希望、自分たちができることは何かを話し合い、サ高住でしかできない看取り、その人らしい最期について意見を出し合い安心して、穏やかに過ごしてもらう為にまずは、Tさんの入居前の住環境を家族から聞き取り環境づくりを行った。
- ・ アパートは畳の部屋だったので、少しでも安心して過ごせるように畳を部屋の中に敷き、家の中で使っていた家具等を設置した。

- ・過度に干渉しすぎないようにして自由に過ごせる環境を作るように心がけた。
- ・介護職員、看護職員の役割は何かを考え、役割分担
- ・これから起こる体調の変化、観察ポイント注意事項を看護師から指導してもらい対応の統一を図り、何かあってもあわてないよう心の準備をした

◎責任を持って最期まで支援する意識

- ・少しでも安心して穏やかに過ごしてもらえるように、最期にここでよかつと思えるように気持ちに寄り添って支援していくように職員間での意識統一をした

○ Tさんの最期

- ・強い頭痛を訴えることが時々あり鎮痛剤で収まっていた。入浴は週に2回デイサービスで行っていた
- ・徐々に認知症が進行、下肢筋力も低下居室の中で転倒していることや廊下に這って出てきてしまうことがあり安全確保のためにサ高住の事務所で過ごすことが多くなっていた。
食事量も低下してきており全身状態が低下してきたため再びカンファレンスを行う。
- ・出来るだけたくさんの職員で関わり、密に情報交換、意見交換をし、楽しく穏やかに過ごして頂けるようみんなで協力すること。沢山学べることも多いと思いますので積極的に思いやりを持って接していきましょう。と全職員に周知する。

- ・入居後3か月が経過、ほぼ食事も水分も摂れない状態になり覚醒時間も短く、横になって過ごすことが多くなってきました。

このとき主治医から病状について家族に説明

- ・点滴は希望しないと入居当初は話されていましたが、水分も摂れなくなってきてから数日経つと少しでも楽にさせてあげたいと点滴を希望され1日に1本のみ点滴を開始し、点滴を行っている最中は娘さんが付き添ってくれていた
- ・点滴開始から数日、苦痛表情をすることが多く、唸ることも増え家族より痛みから解放してあげたい、楽にしてあげたいと希望あり点滴中止し麻薬のパッチが処方となる。
- ・その後は、昏睡状態が続き、3日後に2人の娘さん、職員が見守る中息を引き取られる。家族と一緒に体をきれいにし、見送ることができた

○ がん患者を受け入れて感じたこと

- ・ 受け入れ当初は不安がいっぱいだったが今となっては貴重な体験をさせてもらえた思いのほうが強い
- ・ これからもがん患者の受け入れは抵抗なくスムーズに受け入れられると思う。
といった意見が多かった
- ◎ 全職員が一丸となり、意識統一や共通認識を図ることができ、Tさんに対する思いは一つになったこと。
- ・ 職場の雰囲気によりよくなったように感じました。
- ・ 利用者や、家族の気持ちに寄り添う事、施設でも家でもなくサ高住でできる
- ・ サ高住看取りの良さは、ある程度自由に過ごせること、その自由の中でも困ったときに声をかけることができること、周りにも誰かがいてくれる安心感がある事。
- ・ 医療や介護サービスを選択できることだと思う。なじみのあるお医者さんにそのまま診てもらえた事、慣れた介護、医療サービスを利用できることだと思います。

○ 現在・これからのサンライズ函館

- ・看取りが日常的
- ・職員の中で、看取りに対する慣れが出てきている
- ・介護、看護の連携が上手くできている
- ・看取りを経験し主治医や家族への連絡のタイミングがわかり最期の時間を家族と過ごせている。

○ まとめ

- ・利用者様に慣れ親しんだ環境の中で最期を迎えていただきたい、最期の場所にサンライズ函館を選んでもらえてよかったと思えるように気持ちよくその方らしく苦痛なく過ごしていただきたいという思いは何年経っても変わりません。
- ・在宅、病院、施設にはできない看取りをしていけるよう環境や体制を整え職員間での意識統一をしていきたい。